



# サロンあへの

## 「人に囲まれない」という想い

### 社会福祉への道

平成23年7月16日(土) サロン・あへの

7月の出会は、育徳コミュニティセンターにおいて、「人に囲まれて生きたいという想い」と題して、特定非営利活動法人「へるぶるねつと」理事長の亀谷和生氏にお話を伺いました。他に、株式会社ミリオンパワー取締役、介護事業所：有限会社「へるぶる」取締役を兼務。

#### ・生い立ち

自分には四肢麻痺の肢体不自由があった。小学校の時から絵を描くことが大好きだった。中学校や高校では美術の賞を獲っていた。高卒後も障害者職業訓練校でデザインを勉強した。将来は、新聞や

広告に関わりたく、在校中も賞をとっていた。訓練校を卒業後、就職活動をやっていた。が、行くところが大丈夫か、身体が動かない状態など考えて、必然的に設備の整った大企業を目標に面接を受けた。

絵を見せて、自分のデザインの技能をアピールしたが、自分が障害者であるという壁にぶつかった。

#### ・自立心向上のきっかけ：電動車いすサッカーとの出会い

今まで障害者の仲間と共にいて、電動車イスで長居障害者スポーツセンターでサッカーをして、障害を気にせず生きてきた。そのため社会に対しての生きづらさを感じてこなかった。幼少期においては

身体が動かないから、母との車移動が中心で18歳位までコンビ二にも行けなかった。

#### ・福祉に携わるきっかけ

訓練校は厳しい規律があり、なんとか頑張っていた。が、卒業後、その反動で疲れてしまい、何もせず家に3ヶ月くらい居た。するとサッカー仲間から書類を打ってと言われた。が、その気にならなかった。ある日、家でバランスを崩してこけてしまい、車イスに上が



亀谷和生氏

れなかった。母がヘルパーで働いていて家にい  
なかつたから、そのまま動けなかつた。テレビ  
のリモコンがとれない、トイレにも行きたくな  
るし、お腹もすいてくる。その時に思ったこと  
は、学校へ行っていた頃は先生や仲間を支えら  
れていたことに気がついた。人を呼べば、お茶  
がでたり、座らせてもらったり、自分にとって  
ちよつとしたことが非常に大切なことだと思  
知った。

・自分にとつて必要な環境を第一に進路選択

昔から絵を描いて、デザイナーになろうと思  
っていた。それをするには、座つたり服を着た  
りする必要がある。そこで思ったのがヘルパー  
が必要だった。情報誌に10年前に募集したが、  
あまり効果がなかつた。いろいろ探している  
友達の仕事を探し中の人を紹介してくれた。一  
人、二人と紹介され、繰り返し返された。ある日、  
ヘルパーさんが来れなくなることが多くなつた。  
来れなくなる理由は、仕事が入つたりすること  
であつた。当時の自分は単純に仕事場を作ると  
いう発想の勢いで動いた。介護の法律とかが作  
られてなかつたので、仕方なく介護保険事業所  
を立ち上げた。障害者の自分には、高齢者のこ  
とが分らず事業所は、ふるわなかつた。待機

のヘルパーさんには、自分の身の回りのことを  
ボランテアでもらう。それが1年間続い  
た。平成15年に支援費制度ができた。長居のス  
ポーツセンターで知人から支援費制度ができた  
けど、何処でやっているか分らないと相談を受  
けた。ヘルパーがいない、「亀ちゃんについて  
ヘルパーさんが良くやっているので、ヘルパ  
ーを派遣してくれへん」と言われた。また、他  
の事業所を利用した人から、亀ちゃんの事業所  
のほうがいえと言われた。

・人に囲まれて生きたいという想い

当初、介護をやるためにヘルパー事業所を作  
つたり、人の役に立つという感覚で「へるぶふ  
る」を作つたわけではなかつたので、自分が生  
きるために作つたものが、人の為になるとい  
うことが感じなかつた。自分が伝えることによ  
つて他人が助かるならば自分が介護ができなく  
ても同じ障害のある仲間を支えられることがわか  
つた。僕のことをどうやって伝えるとか、仲間  
を介護してもらふこと、集まることに意義をも  
つた。そこで仕事っていいもんだなと思えるよ  
うになつた。自分が人に支えられている思いで  
今までやってこれた。母には自分が「訓練校の  
時に給付された手当をもとに事業所をやるのは

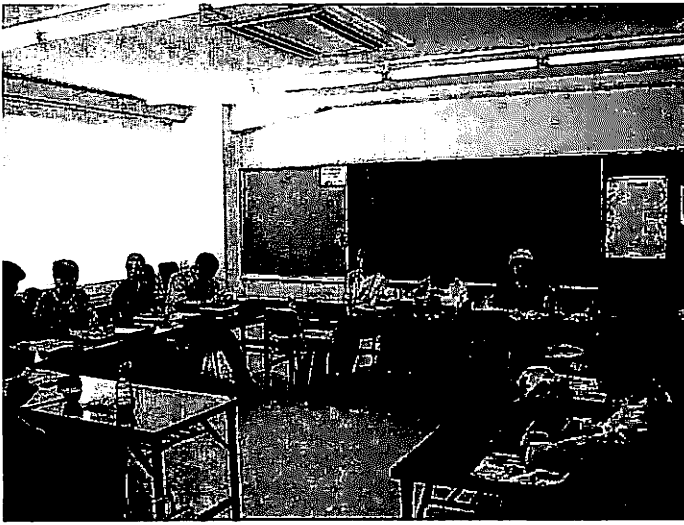
大変や」と言われた。一生、何か世話を受ける  
たびに「ありがとう」と言い続ける人生はいや  
と19歳の時に思ったので、みんなに囲まれて生  
きるんやと言つた。いろんな思いがあつて、「人  
に囲まれて生きたい」と思った。母には、「あ  
んたは一生、人に囲まれて生きや。そのかわり  
人に囲まれたときは、私の手から離れてや。「へ  
るぶふる」は、絶対つぶれるから、一緒にやる  
と共倒れになる。だから一人でやりなさい。私  
はつぶれた時のために他の事業所で働く」と言  
われた。

お蔭さまで「へるぶへる」は、10年続いてい  
る。皆さんにご愛顧されて5年位前から安定し  
てきた。皆さんや同業者の集まりで、自分を覚  
えてもらったときに、自分が「人に囲まれた」  
状態になつていた。次に何をしたらいいのか迷  
つた。母から、祖父の言葉を伝えられ、「失つ  
たものを数えるな。残されたものを生かそう」  
という手記が出てきた。動くところは口だけ。  
初心に戻つて伝えていく努力をしていこうと現  
在、通信だけ大学に入って勉強している。事  
業所では、ヘルパーさんの確保のため、ヘルパ  
ー教室を開いている。また、岸田さんとの係り  
で住吉区のアクションプランにも関わらしても  
らい、地域福祉のバリアフリー、啓発DVDの

作成などに参加している。

生きるための行動が、人の役に立つ仕事となっている。いろんな苦労があると思うが、始める行動力と周囲の共感を得る元気を感じた（サロン・あべの）7月の出会いでした。

（参加者23名 山村貴司）



## 美智子のこんな話

岸田美智子

うーん?!やっぱり似ている?

先日、NHKのヒューマンドキュメンタリーで「あなたが心の道しるべ」というタイトルで、1時間番組で放映されたのを見られた方もおられると思います。この番組は、北海道に現在暮らしておられる小山西美智子さんという私と同じように重度障害者で、福祉施設「アンビシャス」の施設長である彼女と宮城県の知事であった浅野史郎さんとの25年間にわたる戦友物語でした。それにこの2人は悪性リンパ腫と白血病という命に関わる難病を克服され、現在元気に暮らしておられます。

浅野さんと小山西さんは、浅野さんが厚

生労働省におられた時の戦友で、北海道に初めてケア付き住宅を作った関係です。小山西さんは、私と同じで両手足がほとんど動かず、現在は24時間介護を受けながら施設長の仕事と作家活動をしておられます。小山西さんには、3・4回お会いしたことがあり、同じ「美智子」で、車イスに乗っているし、年齢も同じで、執筆活動をやってるので、いろいろな人からよく間違えられるので、困ったなあというお話をしたことがあるのを、懐かしく思い出しながらこの番組を見ていました。そして、小山西さんには26歳になる大地君という息子さんがおられ、離婚などの経験もされていますが、その言語障害のしやべり方や生き方がよく似ていると改めてこの番組を見て実感しました。一緒にテレビを見ていた私のヘルパーさんも、

「本当によく似ている」と言われました。

小山西さんも私と同じように、今の若い障害者たちはいろいろな面で恵まれているので、積極性がなく、はがゆさを感じるとこの番組で発言されていました。私も全く同感でした。偶然とはいえ、ここまで似

ているとなんだか体の中の細胞まで似ているような気がしてきました。これから、小山内さんも私もどんな人生を送っていくのか楽しみだなあと考えましたし、またどこかでいつかお会いできる日を、楽しみに過ごしていこうと思つたひとときでした。

## 二度と 戻らない日々

先日、長男がかわいがっていたペットのハムスターが死んでしまった。私たちが、妻の仕事の関係で新しい街に引っ越したのが二年前。長男が小学四年生のときだった。そのときの彼の小学校のクラスは荒れていたそうで、長男は長い間クラスに友達が一人もできず、とても寂しい思いをしていた。そんなときに長男はペットを飼いたいと言いだし、彼はハムスターを選んだ。私たちは貸家に住んでいて、犬とか猫など

の大きな動物は飼えなかったからである。

なんでも恐がりのところがあつたからである。ハムスターがいよいよ我が家にやってきてもなかなか抱くことができなかった。なにもわかない保育園児の次男は平気で乱暴につきまみあげ、その小動物に時々噛みつかれても、抱き上げては小さな身体をなでていた。そんな弟の姿をみて自分が情けなく悔しかつたのだろう、長男はポロポロと涙を流していた。

あれから二年たち、長男から愛されながらもハムスターの寿命が近づいていた。近所の行きつけの獣医さんも「そろそろ終わりだね」と言っていた。いよいよ呼吸が速くなつてきて、二人の息子たちと妻が、あわててハムスターを獣医のところ連れていったら、そのときに打たれた注射のショックで死んでしまったらしい。そのとき、キューッと叫んだのか叫ばなかったのか、そういう動きはしたそうのだが、残念ながら私だけがその場にはいなかった。風呂に入っていたのである。

風呂からあがると、次男が、最初に一人で家に帰ってきて、しよぼんとしながら「ハムちゃん、死んじゃった」と小声で言う。帰り道は泣いていたと妻が言っていたが、そのときはもう

泣いていなかった。長男も泣いてはいなかった。

「ああ、そうか、それは残念だったね」と言いながらも、私は次の日からの旅行の準備で忙しかつた。動かなくなったハムスターの姿をみて、ひととおりの説明を聞くと、そのまま二階の自分の部屋に戻っていった。そこで、どうしても見つからないものがあつたのである。いつまでも柵のなかをひっくり返しては探していた。

そのうち一階がずつと静かなことに気がついて、どうしたのかなと降りてみると、ハムスターは菓子箱に入れられて、白い布がかぶせられ、その前では二本の線香が白い煙を出していた。今夜はハムちゃんの通夜なのだと言はう。そして二人の子どもたちと妻が黙って座っていた。長男は、両目からポロポロ涙を流してはハンカチで拭いていた。

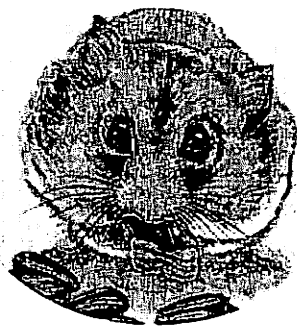
ああ、あれから何時間もたっているのに、まだ泣いていたのか。この子の大事なときに私はくだらない捜し物をしていてそばにいてあげられなかったのだと初めて気がついた。そして、赤ん坊のときから比べてずいぶん大きくなった背中を何も言わずに力強くなでてみた。

私の父が亡くなってまだ一年もたっていない。私の父の死にも泣かなかつたはずのこの子たち

が、ハムスターの死に泣いていることが、私にはどこか面白くなかった。だから、この子の涙にいままで気がつかなかったのだ。

遠く離れていてあまり会うこともなかった祖父の死よりも、毎日二年以上、とくに友達が誰もいなくて寂しい日々にいっしょに遊んでくれたペットの死を悲しむことは、この子にとつてはごく自然なことだった。

死は、どのような形であれ、私たちに二度と戻らない日々があることを教える。そして何を失い、何を与えられたかを知らせてくれるのである。(知)



## 晴れのち晴れ

稲垣恵雄

### ■コロッケ

梅雨の晴れ間の6月某日、八尾のプリズムホールへ「コロッケ」のものまねコンサートを聞きに行った。

予定通り、午後2時半に幕が開くと、ステージの袖からきらびやかな衣装を身にまとったコロッケがおもむろに登場した。コロッケは今、人気絶頂だけに満員の会場から盛んに拍手と歓声がわき起こった。

最初は新御三家の郷ひろみ、野口五郎、西条秀樹のものまねからスタートし、和田アキ子、ちあきなおみ、岩崎ひろみなどの女性歌手も次から次へと披露された。ともかく地声ではなく、それぞれその人に合った声に変えていかなければならないので余程のテクニックが必要である。それにものまねといっても声だ

けでなく、顔も手足も全身を動かしてその歌手に似るようにしなければならない。だから一層本人が歌っているように思われ、面白くて楽しいのである。

コロッケは今年、芸能生活30周年になる。それを記念にさだまさしが「いのちの理由」という曲を作ってくれたそうだ。

「私が生まれてきたわけは、  
両親に会うため

私が生まれてきたわけは、  
兄弟に会うため

私が生まれてきたわけは恋しい  
人に会うため」

といった内容だが、コロッケ自身の声で歌ったので、私はなぜか胸に迫るものを感じた。

開演中は少しも休むことなく、2時間打っ通しで歌い、踊り、しゃべり続けたコロッケのバイタリティとパワーはすごかった。



中村かずみ

# 家族でアメリカ!

## ケンタッキー州滞在記

22

夏到来、あつという間に洗濯ものが乾きます。

お日様において、幸せですよ。

夏休み、毎日蝉時雨がにぎやかです。

4年前の夏ケンタッキーに着いたのは8月31日でしたが、蝉はどうでしたっけ?暑くてもカラッと湿気がなかったのは覚えてます。(なのに学校は冷房が効き過ぎて、長袖上着が必要でした)

アメリカの学年始めが9月から、とは一般に有名かと思いますがケンタッキー州ではもう少し早く、8月半ばには夏休みが終わりになります。以前書いた様に冬の休校が多いためか?

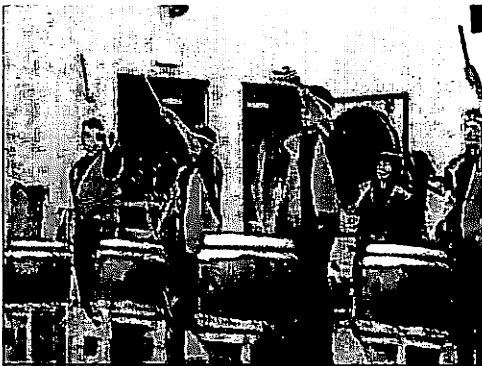
なので、我が家の子ども達がツベルクリン検査や予防接種を済ませて入学出来たころにはすっかり、新学年気分は終わっていました。

ところで、現地の公立小中学校に通わせていた、という『日本人学校はなかったの?』とよく尋ねられました。確かにそれも選択肢です。

ロンドンNYといった大都会、それも数年滞在して帰る日本人家族が大勢暮らす場所では日本人学校も大規模で全日制、設備も充実。更に日本の私立校分校もあるなど、日本と近い教育を選べる環境があるそうです。また逆に、昔私も住んだ南米ベネズエラのように治安や現地校の教育が不安な地域でも、皆さん日本人学校に通わせるので週5日通う平日校になっています。

ところがそのどちらでもないケンタッキー州にあるのは、現地ドイツ・クリーク校の校舎を借りて土日のみ授業の『補習校』でした。

週二日だけ、しかもただでさえ人手不足と聞くとところに知的障害のある長男カズキをお願いするのは、いろいろな意味で無理かと思いましたが、それよ、たった半年なら、弟妹たちもアメリカでしか出来ない経験をすればいいよね、漢字ぐらい忘れてもいいや!という事で我が家の週末は日本語授業を受けずに、あちこち旅行



和太鼓演奏。  
日本アメリカ混成チームだとか

高等部のお姉さんに  
ペイントしてもらおうコウジ



ケンタッキー  
日本人補習校での  
文化祭

となったのです。(実は、漢字よりカタカナ平仮名を先に忘れましたがそれはまた別の話)

それでも補習校には、よくお邪魔しました。

よく遊ぶお友達は授業中。会えるかなーとスリルを味わいつつ、玄関の警備を抜けて図書室へ。日本人なら、登録すれば家族で貸し出しが出来ます。帰国した方の寄贈なのか、ビジネス書が並んでいたりと、珍しい趣味の本が揃っていたり。いわゆる小中学生向けの蔵書以外に大人が読む本も充実している、楽しい図書室でした。

体育館では剣道の講習も行われていたそうで、体験できずに惜しいことをしました。

実は親の心づもりでは、サキはずっと習っていたバレエを。コウジも本場の野球などアメリカでも習えば言葉が通じなくてもご近所と交流出来る予定だったのですが、実際には平日はもう、一日英語漬けから帰ってくる疲れきっていてその後外出どころではありませんでした。また、習い事が出来たとして通うには車が必要で、それもお友達に話を聞くと、お子さんの試合や発表会という隣の州まで片道4.5時間ドライブすることになるとか!

アメリカの広さに驚くばかりでした。

秋には、補習校で文化祭がありました。

生徒さんの作った折り紙や、保護者・先生方の着物での茶道華道の実演があり、間借りする現地校の皆さんや近隣の住民で賑わっていました。毎年の人気コーナーは日本製商品のバザーなんだとか。我が家も、懐かしい日本のお菓いや文房具などを買いました。アメリカ人の大好きなフェイスベインティングのコーナーもあり、漢字が現地の方にウケていました!

カンパ、お茶菓子、バザー用品等  
ありがとうございました。

セルフ社、浦野清美、小島敬大、小西京子、高尾澄男、田中三枝子、平岡太、町野句子、松本克代、眞殿香與女、その他の方、(敬称略)

### サロン・あべの毎月の感謝

## お知らせ

### <サロン・あべの> 9月の出会い

- 内容：ヘルマンハーブ演奏  
～曲に合わせて童謡、唱歌など懐かしい歌をうたいませんか～
- お客さま：「風の音(カゼのネ)」、由布康二氏、楠本光世さん、町野句子さん、他
- 日時：9月17日(土) 午後1時～4時
- 場所…育徳コミュニティセンター2階、研修室  
[大阪市阿倍野区5-15-28  
06-6621-1901]
- 会費…なし、
- 問合せ先…TEL06-6691-1028  
(冨田慶子)



9月はどこのサロンの、  
どのテーマが  
お気に入りですか。  
いい出会いませんか。

■「サロン淀川」9月の出会い

日 時：9月3日（日）午後12時～4時  
内 容：「区民まつりでネットワークづくり」  
～たこ焼きコーナーやふれ愛の場で手作りおも  
ちゃをサロンの仲間と一緒に楽しみませんか～  
場 所：「区民センターグランド区社協・ふれ愛コーナー」  
大阪市淀川区野中南2-1-5  
問合せ先：淀川区社会福祉協議会（ボランティア・ビュー  
ロー）  
☎06-6394-2900

■「サロンにしよど」9月の出会い

日 時：9月24日（土）午後1時30分～3時30分  
集 合：午後1時30分に野里住吉神社正面大鳥居下  
内 容：野里、花川の歴史散歩をしませんか？  
～野里住吉神社、鼻川神社、池永邸など、町内  
の歴史を勉強します～  
そ の 他：雨天の場合は「ふくふく」で学習会を開きます。  
問合せ先：中本☎090-9864-9678

■「サロンにし」9月の出会い

日 時：9月10日（土）午後2時～4時  
内 容：参加型体験学習を楽しもう！！（ワークショッ  
プ）  
ゲ ス ト：宮脇 淳氏（ワークショップデザイナー）  
場 所：西区在宅サービスセンター「ながほり」  
大阪市西区新町4-5-14、TEL06-653  
9-8075  
会 費：なし  
問合せ先：宮脇淳☎090-3949-6973

■「ウイズ東淀川」9月の出会い

日 時：9月11日（日）午後1時30分～4時  
内 容：ハイキングクラブ《かざぐるま》とは、視覚障  
害者と晴眼者（目の見える人）が助け合って、  
山と自然を楽しむ会です。  
場 所：NPO法人自由空間クラブ  
大阪市東淀川区淡路1丁目  
会 費：なし  
連絡先：鈴木昭☎06-6340-3082

■「サロンいたみ」9月の出会いは休みです。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪  
隣のテレビ  
♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪・♪  
奥田真祐美シャンソンリサイタル  
.....  
♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪  
テーマ：ただひとつの愛  
日 時：11月19日（土）16時開演  
（13時30分会場）  
場 所：サンケイホールブリーゼ  
大阪市北区梅田2-4-9ブリーゼタワー7階  
入場料：前売り券=6000円（全席指定）  
当日券=6500円  
問合せ先：奥田真祐美office okuda  
TEL・FAX 06-6692-8774

一九九一年九月三日第三種郵便物承認毎月（一・二・三・四・五・六・七・八）の日発行

<サロン・あべの>Vol.302 発行：平成23年（2011年）8月20日 定価¥100  
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆  
事務局：〒545-0021大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>  
TEL・FAX06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの00950-9-26941  
印刷：セルフ社〒546-0044東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F06-6719-8212  
ホームページ：http://pweb.sophis.ac.jp/oka/salon/「サロン・あべの」でも検索できます